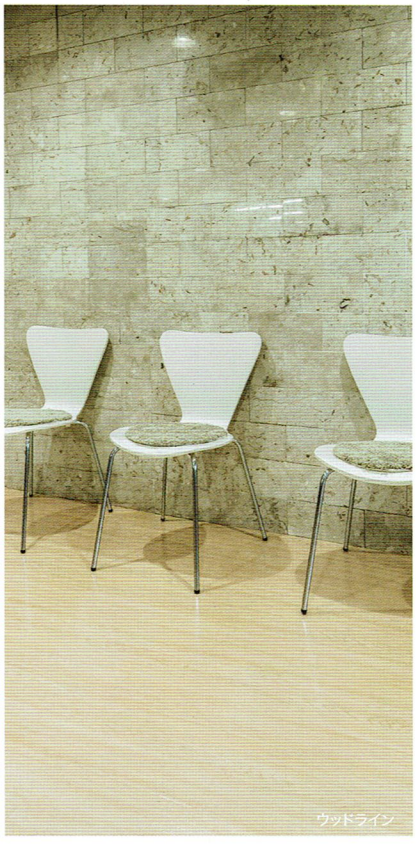
ウッドライン

## Hospital Case 03　優しさに包まれたクリニックへ

医療法人社団 杏仁会　なかむら外科内科クリニック

開業から間もなく40年が経つ街の病院。
事業継承という大きなうねりを迎え、
新しい医院長が打った手は、診療科目の増設とリニューアル。
新しい一歩を支える床材とは…


ウッドライン

フロアフィックス

パーマリューム ストリート

左:木目調のビニル床タイル ウッドラインで、
あたたかい印象の床に生まれ変わった待合室
中:居ながら改修の主役「フロアフィックス」
右:躯体の段差を無くし、バリアフリー化

# 石から木へ、事業継承にかけた想い

福島駅から車で5分、歩いても15分と好立地に建つ「なかむら外科内科クリニック」。1977年（昭52）年に開業した医療法人社団杏仁会中村外科医院として始まりましたが、2016年に事業を継承。診療科目を増設して内装をリニューアル。名称も改め、新しい一歩を踏み出しました。

乳腺・甲状腺外科を加えて標榜したことで、女性の来院増が見込まれたため、ゴールデンウィークを利用しての内装工事が決定。短期間に集中して必要最低限の施工を行い、その他の箇所については“居ながら改修”が計画されました。

「これからは、女性の患者さんが多くいらっしゃいます。内装のリニューアルで、まず心がけたのは清潔感でした」と運営を引き継いだ中村医院長。心の中に新しく描いた空間は、“木”に包まれた優しいクリニックの姿でした。

とはいうものの、開院以来初の改修工事とあって、トイレのバリアフリー化など、躯体に手を入れざるを得ない大掛かりな施工が必要な箇所もありました。時間が限られたなか、材料・工法の選択を細やかに行うことで、全体のバランスを調整し、リニューアルオープンに間に合わせました。

患者さんの印象を大きく左右するのが待合室。床は木目調のビニル床タイル“ウッドライン”。受付の面台や建具も木目で統一、端正に積まれた大理石の壁を残すことで歴史の継承も実現。仕上げは、医院長がセレクトした北欧のデザインチェア。優しさにあふれる空間に生まれ変わりました。

オープン後の施工となった廊下や、医療機器の移動が難しい場所で活躍したのは、既存の床を剥がさず、接着剤も使わずに施工できる置き敷きタイル“フロアフィックス”。小面積を“すきま時間”で施工する効率的なポイント改修が全体のリニューアルを可能にしました。

「顔の見える・信頼と安心をあたえられるクリニック」を実現するために、あえて小さなクリニックで、専門医が診療することを実践しているなかむら外科内科クリニック。中村泉医院長は今日も地域の健康を見守ります。

医療法人社団 杏仁会
**なかむら外科内科クリニック**

所 在 地： 福島県福島市宮下町15-18
施　　工： 松崎建設株式会社
床 工 事： 日東物産株式会社

院長　中村　泉（なかむら いずみ）

平成5年より福島県立医科大学にて臨床・研究に従事、消化器（食道・胃・大腸・肛門・肝胆膵）、乳腺、甲状腺・内分泌疾患疾患を専門とする。福島県立医科大学器官制御外科学講座 講師、准教授を経て現職。
福島医大 多能性幹細胞研究講座 特任教授兼務